

4. 災害実態の把握

4.1 崩壊分布（暫定）

今回の災害における航空写真判読に基づく土砂移動痕跡分布図を図 4.1-1 に示す。なお、本判読図は、領域の一部（図中の判読範囲）のみを対象とした結果であり、判読範囲外において土砂移動が生じていないことを示すものではない。また、領域内の土砂移動実態については全域を対象とした判読を改めて実施し次回委員会で報告する予定である。

従って、崩壊範囲については現時点では暫定的な評価のみが可能であるものの、今回の災害では、阿蘇山外輪部東部においては約 10km の範囲に位置するほとんどの土石流危険渓流において崩壊や土石流が発生したこと、外輪部西部の阿蘇市三久保地区周辺地域及び南阿蘇村立野地区の周辺地域においても崩壊や土石流が発生したことが確認された。

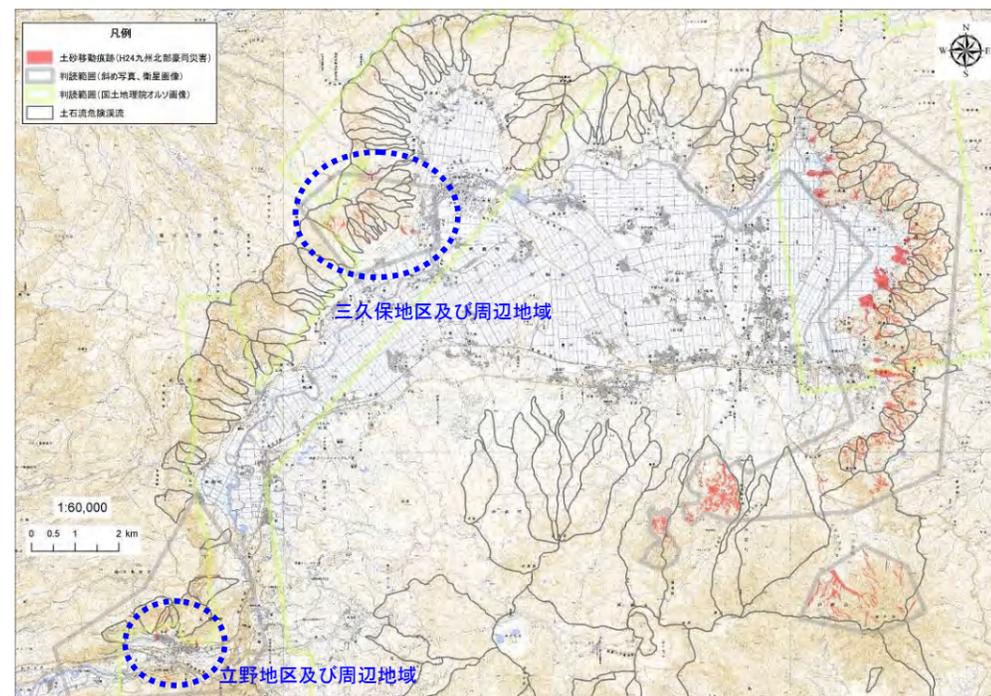


図 4.1-1 平成 24 年九州北部豪雨災害による土砂移動痕跡位置図（暫定）

また、平成 2 年に発生した一の宮災害における崩壊・土石流の発生範囲を図 4.1-2 に、平成 2 年及び平成 24 年に発生した土石流の分布図を図 4.1-3 に示す。

平成 24 年災害は平成 2 年災害を比較し、以下の特徴があると考えられる。

- ・ 平成 2 年災害の崩壊・土石流発生箇所の多くで平成 24 年にも災害が発生している
- ・ 平成 24 年災害では、平成 2 年災と比較して外輪部西部においても災害が発生している。
- ・ 平成 2 年災害では、市街地まで氾濫が及んでいるが、平成 24 年災害では、土石流の流下区間に概ね氾濫範囲がとどまっている。

なお、先述の通り平成 24 年災害の崩壊地判読は暫定的なものであるため、今後改めて判読結果の更新に伴い既往災害との比較検討を実施する。

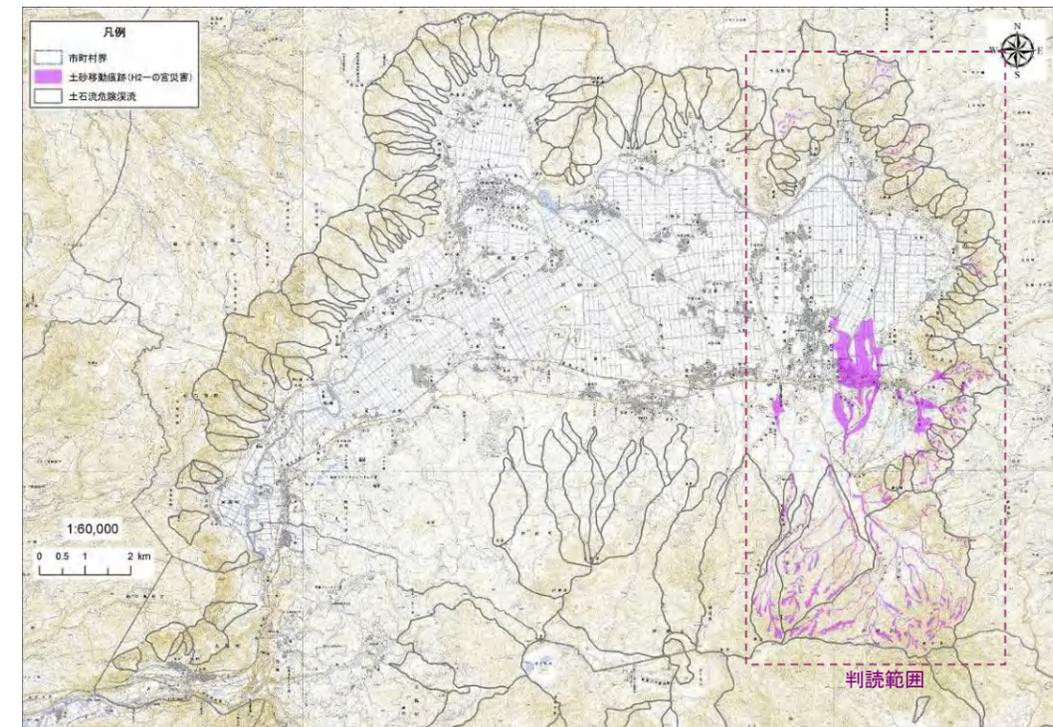


図 4.1-2 平成 2 年一の宮災害時の土砂移動分布図

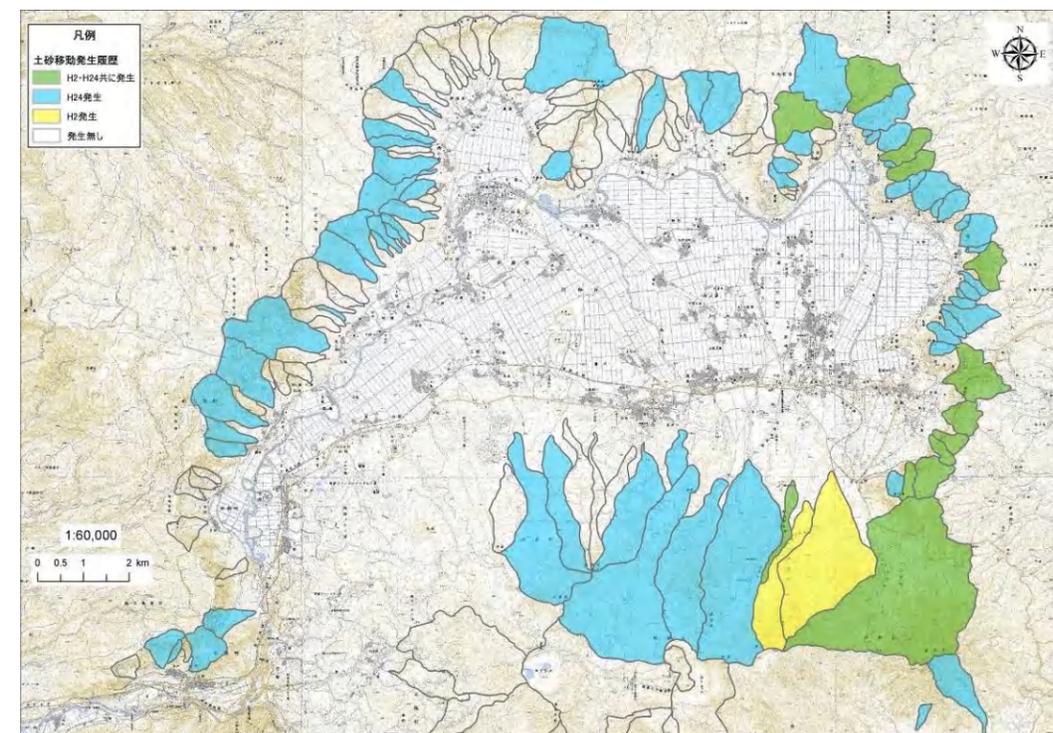


図 4.1-3 平成 2 年及び平成 24 年に発生した土石流流域分布図

4.2 代表的な土砂移動現象発生箇所の状況

① 阿蘇市 一の宮町 土井川 (土石流危険渓流 421-I-014) (流域面積: 0.35km²)

発生日時: 平成24年7月12日(木) 午前5時30分頃(推定)

人的被害: 死者1名

人家被害: 全壊12戸全壊、一部損壊5戸(速報値)

道路被害: 県道内牧坂梨線、市道339土井線、市道512東手野線

本地区の土砂移動現象は以下の通りであったと推定される。

- ・ 林地を源頭部とする崩壊が発生した。
- ・ 多量の土砂・流木が土石流となり流下し、下流の集落を直撃し人的、物的被害が生じた。



写真. 土砂の堆積状況



写真. 上流部の侵食状況

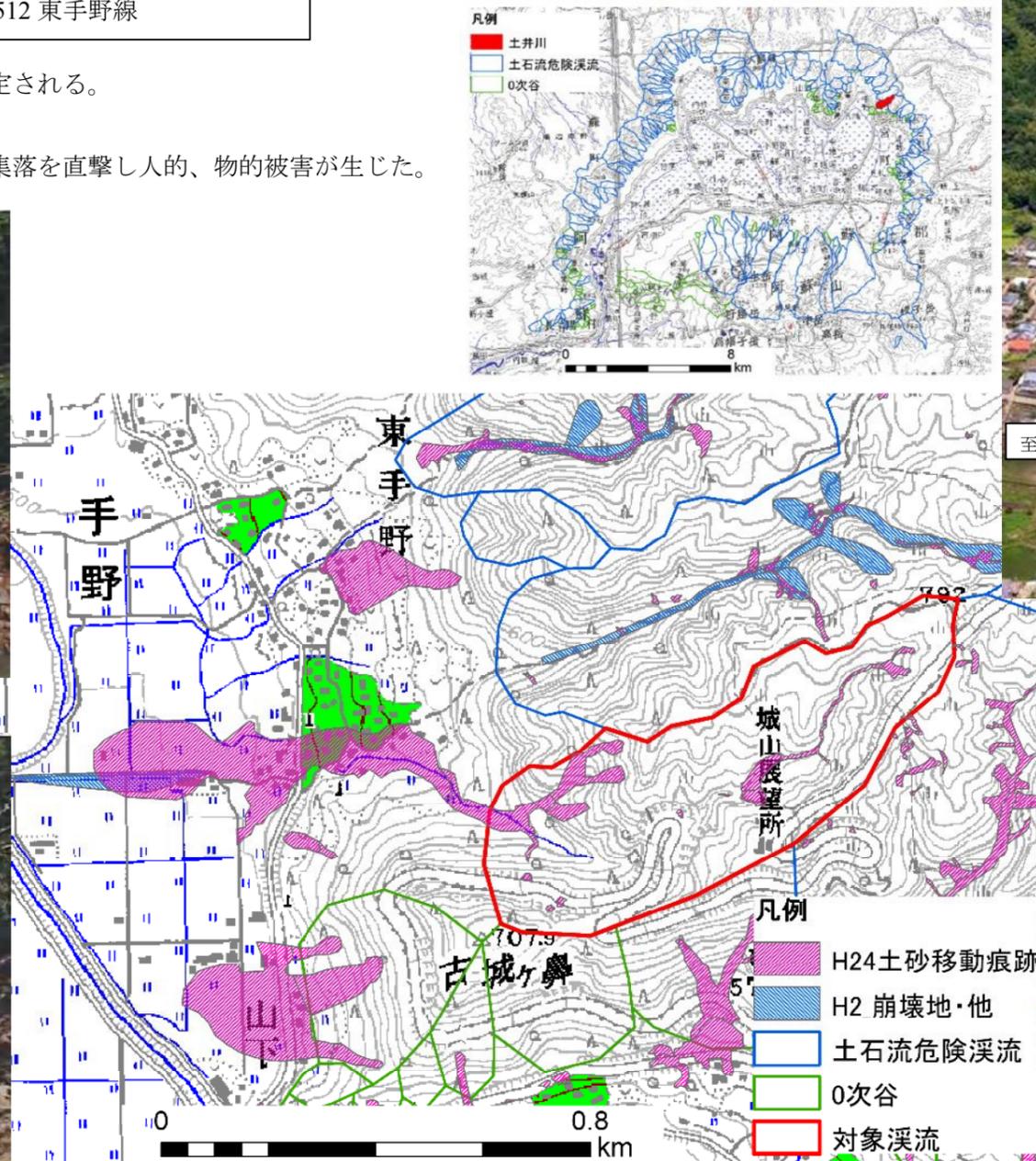


図 4.2-1 土井川平面図



写真. 災害直後の状況



写真. 家屋の被害状況